

ヘルパンギーナの警報発表について(注意喚起)

県内でヘルパンギーナの患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和6年第30週において、大崎保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が8.33人となり、警報開始基準(6人)を超えました。

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に夏季に流行がみられる感染症です。今後、感染者の増加が予想されますので、感染拡大を予防するため、石けんと流水による手洗いと咳エチケットを徹底しましょう。

～ヘルパンギーナとは～

原因:エンテロウイルス属(主にコクサッキーウイルス A 群)への感染です。

症状:突然の発熱(38～40℃)に続いて、のどの痛み、口の中に水疱(水ぶくれのような発疹)ができる。口の中の痛みのため、食事や水分がとりにくくなり、脱水になることがあります。多くの場合、予後は良好。まれに重症化(髄膜炎・心筋炎等)することがあります。

好発年齢:5歳以下の乳幼児に多いです。

潜伏期間:2～4日

感染経路:接触感染(便などで汚染された場所を触った手を口や鼻にもっていきことで感染します。)

飛沫感染(咳やくしゃみで飛散した飛沫の中のウイルスにより感染します。)

治療方法:症状を緩和する対症療法が行われます。

食事や水分がとりにくくなるため、柔らかく、刺激の少ない食事を工夫し、水分補給を心がけることが大切です。

頭痛や嘔吐、発熱等が続く場合は、主治医に相談しましょう。

その他:症状が消失した後も2～4週間はウイルスを含んだ便が排泄されることがあるため気をつけましょう。

～ヘルパンギーナの予防～

- 1 食事の前、排泄後、おむつ交換後等、石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 乳幼児がよく触れる場所やおもちゃなどの消毒をこまめに行いましょう。
- 3 家族や身近な方が感染した場合は、タオルの共用は避けましょう。
- 4 熱中症には十分注意した上で、場面に応じてマスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

○ 各保健所管内における1定点医療機関当たりのヘルパンギーナ患者報告数

保健所名	仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼	仙台	宮城県(合計)
26週	1.00人	0.20人	0.83人	0.17人	0.00人	0.07人	0.25人
27週	1.50人	0.10人	2.00人	0.83人	0.00人	0.52人	0.69人
28週	0.50人	0.80人	1.00人	0.50人	0.00人	0.81人	0.75人
29週	0.50人	0.80人	2.00人	0.50人	0.00人	0.93人	0.91人
30週	5.75人	1.50人	8.33人	2.17人	0.00人	2.00人	2.82人

○ 参考となるホームページ

国立感染症研究所「ヘルパンギーナとは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

宮城県結核・感染症情報センター

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans/kansen-center.html>

宮城県における1定点医療機関当たりのヘルパンギーナ患者報告数

